

令和6年度 第2回海津市総合教育会議 議事録

1 日時 令和7年2月18日(火) 午後4時～午後5時5分

2 場所 海津市役所 東館4階 災害対策本部室

3 出席者の氏名

市長	横川 真澄
教育長	服部 公彦
教育長職務代理者	曾根 理仁
教育委員	伊藤 亮一
教育委員	大津 由佳
教育委員	伊藤 嘉保

4 説明等のために出席した者の氏名

総務企画部長	近藤 三喜夫
市民生活部長	奥村 孝司
健康福祉部長	近藤 康成
教育委員会事務局長	後藤 政樹
財政課長	小粥 政人
企画課長	山崎 賢二
文化・スポーツ課長兼歴史民俗資料館長	徳永 宗哲
文化・スポーツ課課長	
(社会教育施設管理担当)兼図書館長	伊藤 豊
こども未来課長兼こども家庭センター長	毛利 卓司
こども未来館長こども図書館長	山本 桂子
教育総務課長兼学校給食センター所長	後藤 英仁
学校教育課長兼総合教育センター所長	大坪 光
企画課課長補佐(総合政策担当)	岩田 三佳

5 傍聴者

なし

6 議題

- (1) 市内小中学校におけるいじめと不登校の実態について
- (2) 岐阜県立海津明誠高等学校との連携について

7 その他

- ・かいづっこコミュバスパスポートの利用結果について

発言者	発言内容
企画課長	<p>これより令和6年度第2回海津市総合教育会議を開会する。 開会にあたり、市長より挨拶申し上げる。</p>
市長	<p>前回の総合教育会議でご報告した「こども未来館 ZÜTTo」は11月2日にオープンして以来、非常にご好評をいただいている。2階のキッズ広場の来場者は、1月5日に10,000人を突破した。また、昨日の来場者数は16,854人であり、1日の平均が192人、平日の平均は119人、休日の平均は291人となっている。</p> <p>当初、年間来場者数を44,000人と見込んでいた。このペースで行くと、70,000人に到達する勢いとなっている。</p> <p>なお、来場者数の居住地割合につきましては、市内の方が15%、市外の方が85%で、市外からの来場者が非常に多い。一定の市民の利用がありながらも、市外からの誘客に繋がっているという点や、市外にもない、子育て世帯にとって魅力のある施設を立ち上げることができた点について、非常に嬉しく思う。</p> <p>今後もさらに、魅力を高め、多くの子育て世帯に集っていただけるような施設にしたい。</p> <p>次に、歴史民俗資料館につきましては、施設の名称を「木曾三川輪中ミュージアム」に改め、3月29日にいよいよリニューアルオープンする。宝暦治水や木曾三川の分流工事等、水との戦いの歴史をしっかりと後生に伝えていきたい。そして、木曾三川が育んだ歴史、文化や伝統を市内外に紹介したいという思いでリニューアルオープンに取り組んでいる。</p> <p>「木曾三川輪中ミュージアム」エントランスのウェルカムアートは、グラフィックアーティストの左右田薫さんをお願いした。左右田さんは、デビュー20周年を迎えた安室奈美恵さんのCDジャケットのデザインをされ、非常に有名な方である。ウェルカムアートのデザイン案は素晴らしいものであった。皆さんにも期待していただきたい。こちらのウェルカムアートは市民に参加していただき、公開制作を行いながら完成させる計画である。</p> <p>さらに、「木曾三川輪中ミュージアム」の展示はプロジェクションマッピング等のデジタル技術を活用し、宝暦治水等の歴史について紹介する。</p> <p>他にも、当時の海津の暮らしが体験できるコーナーや学習プログラムを設ける。</p> <p>ただ単に資料を見るだけではなく、学ぶ施設とし、シビックプライドの醸成に繋げていきたい。さらには、宝暦治水等の海津の文化資源を活用した文化観光にも繋げていきたい。</p> <p>今回の議題の一つに海津明誠高校との連携がある。若い世代の豊かな発想、行動力を海津のまちづくりに活かし、地域の活性化及び高校の魅力化を図る目的で、2月27日に海津明誠高校との包括連携協定を締結する予定</p>

	<p>である。</p> <p>海津市の教育が特色と魅力ある、子育て世代に選ばれるものとなるよう、忌憚のないご意見を頂戴したい。</p>
企画課長	<p>議題（１）市内小中学校におけるいじめと不登校の実態について、学校教育課長より説明する。</p>
学校教育課長 兼教育総合センター所長	<p><資料により説明></p>
曾根委員	<p>教員の職場は特殊な世界であり、同僚の教員同士のライバル意識が強いと聞いたことがある。</p> <p>そのような意識を乗り越えて、学校が一丸となっていじめに対応する環境を作らないといけない。</p> <p>隣のクラスの生徒のことは把握しない、対応しないという意識を改善し、児童の些細な情報を簡単に共有できるような環境づくりが必要である。</p> <p>そのような環境づくりをしなければ、いじめ等の問題を解決できないと感じている。</p>
教育長	<p>私自身は、学校や市が一丸となっていじめや不登校に対する課題意識を持っているのではないかと感じている。</p> <p>資料にある、令和元年のいじめの認知件数「327件」という数字は、児童生徒の些細な状態を見逃さないという教員の意識が表れているのだと考える。</p> <p>「いじめがある」という保護者からの申し出に対して、丁寧に、1人ずつ児童の話聞いたことで、誤解が解け、「いじめがある」と感じた児童も楽しく学校生活を送れるようになったという事例があった。</p> <p>これは、教員が保護者や児童からの申し出に対して、児童同士の人間関係に着目し、丁寧に働きかけた努力の結果だと考えている。</p> <p>私は、いじめや不登校に関して、学校一丸となって取り組んでいると感じている。</p>
曾根委員	<p>いじめ対策として、児童生徒と語り合う時間が非常に大切だと言われている。</p>
伊藤(嘉)委員	<p>まず、文部科学省もいじめ認知件数の多寡は問わないとしているので、認知件数の多さについてはご理解いただきたい。認知件数が多いということは、教員が懸命に児童生徒のことを見ているということ。</p> <p>いじめ認知件数より、認知した件数に対するいじめの解消率の高さで評価するのが良い。児童生徒の中で、いざこざがあるということは当たり前のことで、それがなければ児童生徒の成長もない。</p> <p>解消率が低ければ、学校が支援していくことをお願いしたい。</p> <p>資料より「保護者との信頼関係が構築不十分で事態の収束が難しくなる</p>

	<p>ケースがある」とある。一度保護者との関係が悪化すると関係の再構築が難しくなる。</p> <p>教育委員会にC R T（クライシス・レスポンス・チーム）を位置付け、保護者と学校との間に入り、事態の収束を図る体制を構築できると良い。</p>
教育長	<p>C R Tは今年度、教育委員会が実施している。保護者と学校との間に入って、冷静に対応するという事は非常に良い方法だと感じている。</p>
伊藤(嘉)委員	<p>保護者等に安心感を与えるために、市のC R Tとしての対応をアピールすると良いと思う。</p>
企画課長	<p>議題（2）岐阜県立海津明誠高等学校との連携について、企画課から説明させていただく。</p>
企画課 課長補佐	<p><資料により説明></p>
伊藤(嘉)委員	<p>海津市と海津明誠高校との連携が保護者や生徒、中学生以下の児童生徒に伝わって、理解を求められることが一番大事だと思う。</p> <p>市だけでなく、学校の教職員も本気になって取り組まなければ、海津明誠高校の定員割れの問題は解決しない。海津明誠高校に積極的に理解を求め、連携をしていく必要がある。</p>
伊藤(亮)委員	<p>連携するにあたって、生徒に過剰な負担がかからないか心配である。負担については海津明誠高校と打合せされているか。</p>
企画課 課長補佐	<p>生徒だけでなく、教員の負担にもならないよう、学校と協議している。</p>
伊藤(亮)委員	<p>保護者等に伝えるために、マスコミに積極的にアピールしていく必要があると考える。</p>
大津委員	<p>市からの新規の提案に対して、海津明誠高校がどのように受け止めているか心配だった。</p> <p>学年ごとで保護者と生徒の考え方が違っている。遠くの学校に行って、社会勉強したいという学年と、近くの学校に通いたいという学年がある。</p> <p>海津明誠高校に通うことで実現できる体験をアピールし、少しずつ生徒数を増やすことができれば良いと考える。</p>
教育長	<p>島根県立隠岐島前高校は廃校の危機にあったが、市との取組みにより、生徒数が84人から180人に増加した。取組内容は、本市の協定の内容と同じである。</p> <p>こうした取組みを実施するにあたり、教員や市民の本気度の高さが大切だと考えている。大人が「海津明誠高校が良い」と本気で思っていないと、生徒を活躍させることはできないと考える。</p> <p>先日、海津明誠高校は、観光甲子園の地域探求部門で準グランプリを獲得し、様々なマスコミに取り上げられた。このように取り上げられることは、生徒の自信となる。</p>

	<p>このような生徒の自信と実績が、市の活性化等に関するやりがいや興味を生み、市で活躍する人材の育成につながると考える。</p> <p>ぜひ、包括連携協定を積極的に進めていただきたい。</p>
市長	<p>生徒や教員の負担になることは、学びにならないことだと考える。活きた学びの場を提供することで、生徒にとっては成長につながる場、また、教員にとっては生徒の教育につながる場を作ることが大切だと考える。</p> <p>市のあらゆる資源を通じて、海津明誠高校の生徒に活きた学びや経験を提供したい。</p> <p>具体的な取組みは来年度になるかもしれないが、しっかりとスタートしていきたい。</p> <p>海津の「書店ゼロ」という大きな課題解決のため、海津明誠高校の生徒たちに、書店を運営してもらうことも一案と考えている。</p> <p>学びとなる状況を作ることが海津明誠高校の魅力や生徒たちの成長につながっていくため、今回の協定締結を機に海津明誠高校と積極的に協働・共創の取組みを実施したい。</p>
曽根委員	<p>海津明誠高校の生徒が自分たちの活動について、自ら発信していくことを検討してはどうか。</p>
企画課長	<p>その他 かいづっこコミュバスパスポートの利用結果について、私から説明させていただく。</p> <p><資料により説明></p>
企画課長	<p>これにて本日の会議を終了する。</p>

閉会 午後5時5分